

「平成30年度海外SD研修（マレーシア）&APSSA国際会議参加学生 報告会」

開催日時：2018年9月21日（金） 18：00～20：00

情報交換会 20:00～21：00

参加者数：教職員20名（会員校からの参加者 14名、会員校以外からの参加者 6名）

参加大学数：13大学（会員校 7校、会員校以外 6校）

発表者数：研修参加職員4名、研修参加学生13名

○今回は、8月5日～8月11日に実施された「平成30年度海外SD研修（マレーシア）」参加者と「APSSA国際（学生）会議2018参加学生」の報告会を兼ねて、海外SD研修や国際学生会議に参加することによる参加者の気づきや成長についての発表の機会とした。

（1）「APSSA国際（学生）会議参加学生による参加報告」

- ① 「APSSA国際（学生）会議2018」に参加した学生全員で作成した「研修日程」、「各日の研修内容」、「帰国後の変化」などをまとめたパワーポイントを用いた発表を学生8名がリレー形式で行った(英語)。



英語で発表する学生たち

- ② 研修参加15名の学生のうち、すでに海外留学等で日本を離れている2名の学生を除く13名全員が「研修参加前の期待」、「研修参加で感じたこと」、「研修終了後の自己の変化」、「今後の展望」などについて口頭で発表を行った(日本語)。



参加学生ひとりひとりの口頭発表

- ③ 参加学生各自が渡航前に記入した「21世紀型スキル」の自己評価と帰国後の自己評価の増減について、塩川SD研修コーディネーターより、「10の項目全てで20ポイント以上の増加があった」ことや、「特にLife and CareerとPersonal and social responsibility including cultural awareness and competenceの2項目では31ポイントという大幅な増加があった」ことが紹介された。

(2) 「海外 SD 研修参加報告」

※大学コンソーシアム大阪会員校からの参加者 6 名のうち、業務の都合等で参加できなかった 2 名を除く 4 名により、お互いの発表内容が重複しないように事前調整をし、4 名の報告全体で研修の全容がわかるよう工夫された発表が行われた。

① 大阪女学院大学 香山由希氏の発表

香山氏は、APSSA 国際会議 2018 において、英語による口頭発表を行った。その発表の様様をビデオで紹介しながら、発表内容や口頭発表が行われた模様などを報告。

② 大阪市立大学 藤巻貴子氏の発表

藤巻氏は、「海外 SD 研修」の事前研修と現地での日程、「APSSA 国際会議 2018」全体の概要、現地大学訪問などの説明を行い、研修の全容と感想を報告。

③ 大阪経済大学 浅田直哉氏の発表

浅田氏は、今回の研修に参加して「危機感を持った」理由について述べ、さらに「APSSA 国際会議 2018」に参加していた他の国・地域からの参加者が国際交流部署以外の部署からの参加であったことや、その多くが学位取得者であることなどを紹介し、現地訪問大学の「ストーリーを意識した活動」や海外から参加している職員が自らを「EDUCATOR」と認識していることなどにも感銘を受けたと報告。

④ 摂南大学 朝倉由衣氏の発表

朝倉氏は、訪問大学 3 校における「学生を惹きつける工夫」についての事例を多く紹介しながら、「多くの学び」があったことを報告。最後に「APSSA 国際（学生）会議参加学生」たちの現地での活動をまとめた動画を披露し、学生の成長を間近に見ることのできた今回の研修で多くの刺激を得たと報告。

(3) 研修参加者への「修了証」の授与

荒川 大学コンソーシアム大阪理事長(大阪市立大学理事長兼学長)より、研修参加者のうち、報告を行った 4 名に「修了証」が授与された。

(4) 情報交換会

情報交換会は、キャンパスポート大阪で開催された。



情報交換会で学生たちに話しかける教職員

(5) 第5回「Salon De 大学コンソーシアム大阪」参加者の感想

学生たちの事前研修会も参観された「大阪工業大学 入試部 中原秀一様」に「確かに感じた学生の成長」として感想をいただいた。

事前研修から成果報告会までを見学した。学生と直接は交流しなかったものの、以下3つの成長を特に大きく感じることができた。

1. 団結する力

総勢15名の学生が日本からの参加グループとして1つにまとまった。

2. 多様性に触れ、それを理解する力

「国籍」、「年齢(学年)」、そして大学コンソーシアムならではの「所属大学」を異にする者たちとの交流、多様な国の人々のアイデアに触れたことで涵養されたであろう。

3. 苦手、恐怖を乗り越える力

英語力やプレゼン力が研修前後ではっきりと向上したことを確認できた。「苦手」「恐怖」の意識を「必要」や「経験」を糧に克服した姿が見られた。

これらの力は、まさにAPSSAで学んだ「グローバルリーダーになるための素養」である。APSSA参加の前後に行った21世紀型スキルの自己評価の上昇にも現れており、学生自身も成長を実感できたプログラムであったであろう。

いずれの力も「海外」ならではの学びであり、大学コンソーシアム大阪初の学生海外派遣プログラムの成功を物語っている。

個人的には、普段学生と接することのない部署にいたので、久しぶりに学生の成長が見られたことが嬉しかった。また、事前研修の手法を学べたことが収穫であった。特に塩川先生が担当された事前研修は、学生がAPSSAでの発表、ディベートを円滑にするのに役立ったと感じた。

以上

(本報告書の文責：大学コンソーシアム大阪 SD 研修コーディネーター 塩川雅美)